

第9回 円山川流域委員会 議事録(概要版) 会議の概要

日 時： 平成 16 年 4 月 27 日(火)13 時 00 分から 16 時 00 分
場 所： 豊岡市立中央会館 3F 講堂(豊岡市)

1. 開 会

庶務担当の㈱東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

3. 議事内容

- 3.1 報告
- 3.2 河川管理者からの説明(円山川の現状説明の補足)
- 3.3 円山川流域委員会の進め方について

4. 審議内容および決定事項

4.1 報告

庶務より、これまでの円山川流域委員会の概要及び第8回委員会の審議内容及び決定事項について説明が行われた。

これまでの円山川流域委員会の概要

- ・円山川流域委員会は、平成 15 年 3 月に設立会及び第 1 回委員会が開催され、その後、平成 15 年度に委員が円山川の現状について知識を深めることを目的として、現地視察や現状説明により情報の共有化を進めてきた。

第8回円山川流域委員会(平成 16 年 2 月 3 日開催)

- ・第 6 回委員会で行われた円山川の現状説明(流域の概要、治水について)の質疑に対して、河川管理者より回答・補足説明が行われた。
- ・河川管理者より、「流域の環境と河川管理について」と題して、円山川の社会環境、自然環境、水環境、水利用、維持・管理、広報・啓発活動の 6 つの項目に分けて、現状説明が行われた。
- ・川合委員から、日本の降水量の変化、都市型水害とその対策について、森林と水循環について、情報提供・説明が行われた。
- ・庶務に寄せられている一般住民からの意見が紹介された。また、今後、住民意見の反映方法について議論していくにあたり、ニュースレター、ホームページ等の広報手段を通じて、一般住民からの意見を募っていくことが了承された。
- ・第 9 回委員会は、平成 16 年 4 月後半に開催することとし、委員会の進め方に関する各委員へのヒアリング結果を踏まえて、今後の進め方について議論を行うこととなった。

4.2 河川管理者からの説明

第 8 回委員会の現状説明時に受けた「平常時の水深の変化(過去から現在にかけて)」「洪水時に問題となりそうな架橋」「帰化植物・動物の状況と対策」「河川利用状況」「内水面漁業」等の質問に対して、河川管理者より補足説明が行われ、議論が交わされた。主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- ・昔は、現在に比べて、川の水深がもっと深かったと思う。水深が深かったり、水位が高かったのならば、それが流域の保水力等に関係しているのではないかと。昭和 63 年から平成 15 年の変化を示していただいたが、1950 年代や 60 年代、また昭和初期に比べてどうなのか。(上田委員)
- ・円山川には、ナゴヤサナエやキイロヤマトンボというトンボが生息しているが、この資料ではその記述がない。特に、ナゴヤサナエ(兵庫県 B ランク)は、兵庫県では円山川にしか生息していないと思うし、私自身は円山川を特徴づける生き物の一つと考えている。そのあたりについても少し資料を調べていただきたい。(上田委員)

- ・今から40年ほど前は、もっとたくさんの種類の魚がいた(獲れた)。魚種が減ったのは、気候の変化のため、産卵ができなかったのか、それとも外来種に食べられているのかと考えている。また、夏になれば、川の深さが膝までしかなく、歩いて渡れるような状況になる。この産卵場がないような点については、どう考えているのか。(加藤委員)
提示資料では内水面漁業の関係魚種のためのため少なくなっている。河川水辺の国勢調査によれば生息魚種はもっと多い。(河川管理者)
- ・河床、水深の変化に対して、3カ所の計測地点(立野、府市場、弘原)が示されているが、下流の方は計測されているのか。私の感じるところでは、随分変化してきていると思うが、どうなっているのか。(木之瀬委員)
この3地点は代表地点として提示させていただいた。実際には、200mピッチで横断測量を実施しているので、下流域の状況もわかると思う。(河川管理者)
- ・危険な橋梁ということで4つの橋が挙がっているが、この橋梁は、設計時から危険を承知で架けられたのか。それとも、架橋後の河川水量等の変化によって、危険な状況になったのか。(前田委員)
現在の計画である工実施基本計画は昭和41年に策定されている。昭和63年の改訂時に流量改定が行われているが、架橋の基準としている計画高水位(H.W.L.)は、それ以前に定められている(昭和38年)。これらの危険な橋梁はそれよりも前の昭和初期に計画・築造されたものであり、現在の基準には適合していない。工実施基本計画策定前の考え方は、実績洪水の高水位に対して橋の高さを決め、橋を架けていた。KTR円山川橋梁などは、昭和の初期の段階に、当時の基準で、多分安全だろうということであって架けられた橋である。その後、平成2年に過去に記録した水位より、もっと高い水位となったなどの実績がある。現在は、計画堤防高とか、計画高水位に合致した(基準に沿った)橋梁を架けているし、また架けてもらえるようにしている。(河川管理者)
- ・現在の基準では危険とされているこれらの橋梁が、設計されて、実際に築造された時点で、どの程度の水が流れることが想定されていたのか。また、その他どのようなことを想定して造られたのか。それとももう少し違う理由で造られたのか。それぞれの橋を造る時にいろんないきさつがあったと思う。そういうことを振り返っていけば、過去にどういうふうに川との関わりがなされてきたのかがわかるのではないかと。(前田委員、藤田委員長)
- ・今後、河川管理の議論をすることとなる。そのために(問題のない橋梁とは、)どの程度の基準値なら良いのか。また、過去に基準値に合わせて造ったものに対して、その後どのようなことが起こったのかを整理して欲しい。いろんな制約がある中で、工事ができる、できないということは別にして、なぜこの4つの危険な橋梁が現実に許されているのかについて、今後、議論させていただきたい。(池田委員)
この問題については、今後、委員会の課題として考えていく必要があると思う。河川整備計画は20年~30年というスパンで考えなさいといわれているが、この4橋の架け替えが時間的な経過として20年、30年の範囲で位置づけられるかどうかということもあると思う。少なくとも実績の高水位で危険であったものであれば、やはり短時間でということになり、整備計画でも何らかの対応を盛り込んでいく必要があるのではないかと。(藤田委員長)
- ・昭和25年から30年代は、但馬の各上流域を含めて山の木がどんどん伐採された。そのことと上流域各河川の洪水時の流速データがあれば、下流域の安全対策は検討できるのではないかと。また、途中で遊水池のような場所を何とか確保できるように地域住民の協力体制を考えていかないといけない。農水省は、山林の保水力問題に対してどのように考え、河川局はそれに対応して、今後の水量の変化をどのように予想しているのか。(前田委員)
国交省も最近、流域対応の話はいろいろとされているようだが、現実には非常に難しい課題であると思う。前回、洪水の到達時間の話があり、本川の方は余り変化していないということであった。もう少し中味に突っ込んだものを出していただき、議論をしていきたいと思う。また、農水省との協議についてもどのような話になっているのか、できるだけ努力していただきたいと思う。(藤田委員長)
- ・昭和63年から平成15年までに石川(弘原)の低水位が90cm低下した原因は何か。(有本委員)

4.3 円山川流域委員会の進め方について

1) ヒアリングの実施報告

- ・第6回委員会の審議結果に基づき、今後の委員会の進め方について、委員全員にヒアリングを実施したことが報告された。主なヒアリング項目は以下のとおり。

(項目)委員会の運営に関する意見、委員会の進め方(あり方)に関する意見、勉強会や分科会を含めた情報の共有化についての意見、情報の共有化の最終形態について、一般住民から委員会への意見聴取に関する意見、委員が説明を受けたい内容

2) 平成16年度の円山川流域委員会の進め方について 委員会を進める方針について

- ・円山川流域委員会では、これまで現地視察や現状説明とそれへの質疑などにより、情報の共有化を進めてきた。今後、情報の共有化と並行して、円山川のあるべき姿や望ましい姿について議論していくこととなるが、今後の進め方については、「円山川の具体的な課題を示してほしい」「原案の叩き台を示してほしい」などの意見があったことが報告された。
- ・上記に示した意見等をヒアリング結果から、今年度、どういう方針・方向性で進めていくかについて、議論が行われた。
- ・「ワークショップ形式で進める」といった委員会の進行形態に関する意見、また「円山川への想いやテーマ」といった今後議論していくべき項目に関する意見が各委員から出され、自由な形で議論が行われた。主な意見は以下のとおり。

主な意見

具体的な委員会の進め方に関する意見

- ・問題が広すぎて、どこが終点になっているのかよくわからない。治水、利水、環境など項目を絞って議論していくのが望ましいと思う。(岡本委員)
 - ・河川管理者の現状説明資料はかなりいろんなデータが入っていたので、これを委員会の中で再整理していく手法もあると思う。(川合委員)
 - ・治水・利水・環境というふうに分けてしまうと、どうしても固定観念でものを考えてしまいがちになる。例えばいろんな課題をどんどん自由な形で出し合う中でどういう課題が出てくるかというようなワークショップみたいなものを開催して、そこからどういう課題が出てくるかというような発想でやっていくのも一つの案と思う。(菊地委員)
 - ・ワークショップを実施し、委員が持っている視点・認識を広げる議論を行い、川の持つ意味をもう一度捉え直した上で課題を解決していくことは重要と思う。(池田委員)
 - ・洪水時の円山川対策と平常時のきれいな環境の円山川をいかに守るかという課題がある。この2つを分離して考えていくというやり方もある。(垣田委員)
 - ・それぞれの委員は、円山川に強い想いを持っておられると思うし、河川管理者も管理者の立場としての想いを持っておられると思う。そのようなことを語り合う場を設けていただきたい。(有本委員)
 - ・流域の人々が円山川にどの程度関心を持っているのか、またどういう面に関心をもっているのかを調査し、それに基づいた上で個別の議論を行っていくのはどうか。(平井委員)
- 今後の委員会で取り上げていくであろうテーマに関する意見
- ・川を整備していく上で自然環境を保護していくのは当然であるが、川が存在が人間社会に与えている影響を広く、利用面も含めて議論していくことの方が優先されるべきでないかと思う。川のあり方をどういうふう考えていくのか、根本的な議論が必要ではないか。(安森委員)
 - ・美しい但馬、美しい円山川ということを考える上で、ゴミの問題も議題・課題として挙がってくると思う。(松田委員)
 - ・過去の円山川の改修について、計画の考え方や効果の評価を行った上で、その反省を生かし、今後の改修計画を考えていく必要がある。(山口委員)
 - ・一年中被害を受けているわけではないが、計画を策定するにあたって、まず人々が安心して暮らせることが大事である。その上で自然環境を守っていくことを考えていくべきであろう。(江尻委員・木之瀬委員)
 - ・厳しい財政状況であるので、経済的な視点からみて、整備計画はどうあるべきかについても考えていかなければならない。(有本委員)

- ・今後の委員会を進める方針について、議論の結果、以下に示す方針が了承された。

・今後の委員会を進める方針としては、委員や河川管理者の円山川への想いや思っている(考えている)課題等に対して自由に語り合う委員会を開催する。その後、議論の中から導き出されたテーマについて、順次、議論していく。

その他

- ・円山川流域委員会の進め方の「議論のとりまとめ」「勉強会・分科会の実施」「委員会の運営に関して」「一般住民から委員会への意見聴取に関する意見」については、次回以降の委員会で議論を行っていくこととなった。

4.4 その他

- ・第10回委員会について、以下のことが了承された。

・第10回委員会は、6月中旬頃開催することとし、河川管理者を含めて、「円山川への想い」等の円山川に関するフリーディスカッションを行いながら、今後の進め方の議論を行う。

- ・委員長より、傍聴者に対して意見・質問等が求められ、河川整備の実施にあたっては公平公正に進めなくてはならないという意見や無堤防地区の解消について検討いただきたいなどの意見が出された。